

2級損害保険登録鑑定人

簿記会計

試験問題用紙

(2020年11月)

注意事項

1. 試験責任者の指示があるまで開かないでください。
2. 解答用紙は試験問題用紙の最初の頁に入っています。試験開始の合図があったら解答用紙があることを確認してください。解答用紙がない場合は直ちに申し出てください。
3. 解答用紙には受験番号、氏名、受験地を必ず記入してください。
受験番号は6桁の数字を左の欄から順に正確に記入し、その数字と同じ箇所をマークしてください。記入漏れや間違った受験番号を記入すると採点できませんので、解答した内容はすべて無効（得点なし）となります。また、解答を解答用紙以外に記入しても無効となります。
4. 解答はすべて解答用紙に記入し、解答用紙のみ提出してください。問題用紙は持ち帰って結構です。
5. 解答は、解答用紙の該当する問題の解答欄に楷書で記入してください。
6. HBの鉛筆またはHBの芯を用いたシャープペンシルを使用してください。HBの鉛筆またはHBの芯を用いたシャープペンシル以外（万年筆、ボールペン、サインペン、色鉛筆等）は使用不可です。
7. 訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムで完全に消してください。消し方が不十分な場合には解答が正しく読み取れないことがあります。修正液等、プラスチック製消しゴム以外は使用不可です。
8. 解答用紙の読み取りは機械処理をしますので、折り曲げたり、汚したり、記入欄以外の余白および裏面には何も記入しないでください。
9. 試験時間は正味50分です。
10. 試験問題の内容に関する質問は、いっさい受け付けません。
11. 試験時間中の私語は禁止します。
12. 資料等の使用はいっさい認められませんので、筆記用具、電卓以外はすべてしまってください。
13. 試験時間中は、携帯電話・スマートフォン等の通信機能・記憶機能を有する機器の使用は、時計として使用することを含めていっさい認められませんので、あらかじめ電源を切っておいてください。
14. 「受験票」および「写真が貼付されている公的本人確認書類」は机の上の見やすいところに置いてください。
15. 問題用紙、解答用紙の印刷に乱丁・落丁があれば申し出てください。

一般社団法人 日本損害保険協会

記述式の問題です。解答は楷書で解答欄へ記入してください。

【問題 1】

次の 1～5 の取引の仕訳を解答用紙に記入してください。

なお、勘定科目は下記の勘定科目表から最も適当なものを選んでください。

- かねてA商店に注文していたB品 200,000 円が横浜港に到着したので、B商品の船荷証券 200,000 円と引き換えに商品を引き取った。なお、引取運賃 5,000 円は現金で支払った。
- C商店から注文のあった商品 900,000 円を発送し、代金の 80%については取引銀行で荷為替を取り組み、割引料を差し引かれた手取金 716,000 円は当座預金とした。なお、残額は先方に商品到着後 2 週間以内に受け取ることになっている。
- D商事株式会社は、割引発行した社債 額面総額 8,000,000 円（帳簿価額 7,880,000 円）のうち、その半分を額面 100 円につき ¥98 円で小切手を振り出して買い入れ償還した。
- E商事株式会社は事業規模拡大のため、新たに株式 500 株を 1 株につき 60,000 円で発行し、全額の引き受け・払い込みを受け、払込金は当座預金とした。ただし、会社法に規定する原則の金額を資本金に計上した。なお、この株式の発行に要した諸費用 200,000 円は小切手を振り出して支払った。
- F商店の本店はG支店から、H支店の得意先J商店に対する売掛金 300,000 円を、同店振り出しの小切手で回収したとの通知を受けた。ただし、本店集中計算制度を採用している。（本店の仕訳）

《勘定科目表》

現	金	当	座	預	金	受	取	手	形
売	掛	金	繰	越	商	未	着	商	品
積	送	品	未	収	金	仮	払	金	
支	払	手	形	買	掛	金	社		債
資	本	金	資	本	準	備	金	利	益
売		上	社	債	償	還	益	仕	入
株	式	交	付	費	社	債	償	還	損
本		店	G	支	店	H	支	店	

【問題2】

次の1～3の問いについて解答してください。

1. 次の文の に入る適当な語を解答用紙に記入してください。

勘定につけた名前を勘定科目という。また、勘定ごとの増加額（または発生額）や減少額を記録・計算するために設けられた帳簿上の場所のことを という。その形式には標準式と残高式がある。

2. K商店（個人企業 決算日 12月31日）における下記の資本金勘定と資料により期末の資産総額を求めて解答用紙に記入しなさい。

資 本 金			
6/6	引出金	300,000	1/1 前期繰越 4,000,000
12/24	引出金	100,000	4/26 現金 300,000
12/31	次期繰越	()	12/31 損益 ()
		()	()

〈資料〉

- ①当期の収益と費用

売上高 7,600,000円 受取手数料 400,000円 売上原価 5,000,000円
 給料 2,000,000円 減価償却費 800,000円

- ②期末の負債総額 2,900,000円

3. 次の取引を出金伝票に起票する場合、科目欄①に入る勘定科目を解答用紙に記入しなさい。ただし、商品売買については代金の決済条件にかかわらず、すべていったん掛け取引として振替伝票に起票する方法によっている。

取 引

6月20日 L商店から商品 200,000円を仕入れ、代金のうち60,000円は現金で支払い、残額は掛けとした。伝票番号は41とする。

出 金 伝 票			
令和○年 月 日		No. _____	
科目	①	支払先	金額
摘 要			
合 計			

【問題3】

次の精算表の①～⑮にあてはまる金額を解答用紙に記入してください。

精 算 表

〇〇年1月1日～〇〇年12月31日

単位：円

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	200,000							
当座預金	800,000						⑧	
受取手形	600,000							
売掛金	900,000							
有価証券	1,800,000						⑨	
繰越商品	400,000							
備品	6,000,000							
支払手形		390,000						
買掛金		580,000						
借入金		800,000						
仮受金		300,000						
貸倒引当金		40,000						⑩
減価償却累計額		3,000,000						⑪
資本金		4,500,000						
売上		6,600,000						
受取手数料		40,000				①		
仕入	3,400,000				②			
給料	1,200,000							
支払家賃	300,000							
租税公課	190,000							
保険料	240,000				③			
支払利息	20,000				④			
雑費	200,000							
	16,250,000	16,250,000						
貸倒引当金繰入					⑤			
減価償却費					⑥			
有価証券評価()					⑦			
()手数料							⑫	
()保険料							⑬	
()								⑭
当期純()								⑮

<付記事項>

1. 仮受金 300,000 円は、M商店に対する売掛金の回収額 100,000 円と手数料の受取額 200,000 円であることが判明した。
2. 満期を迎えた約束手形 200,000 円が、当店の当座預金口座に振り込まれたが、記帳していなかった。

<決算整理事項>

1. 受取手形および売掛金の期末残高に対して 5 % の貸倒れを見積る。
2. 有価証券は 1 株 30,000 円に評価替えする。なお、この有価証券は N 商事株式会社発行の株式であり、当店は 50 株を保有している。
3. 期末商品棚卸高は 430,000 円であった。
なお、売上原価は「仕入」の行で計算すること。
4. 備品の減価償却を次のとおり行い、間接法によって記帳する。
取得原価：6,000,000 円 償却方法：定額法
残存価額： 0 (零) 耐用年数：8 年
5. 翌期の 3 月末に現金 180,000 円を受け取ることになっている。これは当期 10 月 1 日からの 6 か月分の手数料であり適正額を見越し計上する。
6. 保険料のうち 120,000 円は、当期 9 月 1 日からの 6 か月分を支払ったものであり、適正額を繰り延べ計上する。
7. 翌期の 2 月末に現金 30,000 円を支払うことになっている。これは当期 12 月 1 日からの 3 か月分の利息であり、適正額を見越し計上する。

<MEMO>

